

令和3年度(2021年度)用

中学校国語科用

「新しい国語」
年間指導計画作成資料
【1～3年】

東京書籍

年間指導計画作成のための参考資料は、次の内容から構成されています。これらの資料をご活用いただき、地域や学校の実情に合わせて、最も効果的な指導計画をご立案ください。

- ◆指導計画作成の手引き…………… P1～3
 - (1)「新しい国語」の構成と特徴
 - (2) 指導計画の作成にあたって
 - (3)「年間指導計画例」の見方
- ◆学習指導要領との対応・配当時数一覧【1～3年】…………… P4～12
- ◆年間指導計画例【1年】【2年】【3年】…………… P13～69

◆指導計画作成の手引き

(1)「新しい国語」の構成と特徴

《全体構成》

・本教科書は、各学年とも本編・基礎編・資料編の3部構成となっています。基礎編には、基礎的な資質・能力を取り立てて鍛えるための教材を、資料編には、本編の学習に役立つ資料を収載しています。本編の流れに沿って学習を進めることで、学習指導要領の内容を漏れなく指導することができます。

《本編》

・本編は、大きく7つのまとまりから成ります。それぞれのまとまりは、「読む」「古典」教材から始まり、次に「書く」「話す・聞く」教材へ、最後に「言葉（日本語・文法・漢字）」教材へとつながる構成になっています。「読む」「書く」「話す・聞く」教材の前には、適宜「学びの扉」を配置しています。

・7つのまとまりのほかに、「読む（言葉の学習・詩・読書）」教材があります。

・7つのまとまりのそれぞれには、身につけたい力に基づく名称が付いており、同じまとまり内の「読む」と「書く」（「話す・聞く」）の教材は、取り上げて

いる資質・能力や題材などの点で、関連を図っています。そのため、「読む」で習得した資質・能力を「書く」（「話す・聞く」）で活用するといった連続性のある学習が可能です。一方、個々の教材は単独で扱える内容になっているため、順序などを自由に組み替えて指導することも可能です。

・「読む」「書く」「話す・聞く」の各教材は、「言語感覚」「詩歌創作」「聞く」など、身につけたい力に基づく系統で区分しています。そして、同じ系統の教材を、学年を追って段階的に配置しています。そのため、3年間を通して資質・能力をバランスよく積み上げてゆくことができます。

本編の構成（全学年共通）

	読む／古典	書く	話す・聞く	言葉	時期	3学期制	2学期制
	詩（巻頭詩）				4～5月	1学期	前期
	言葉の学習			○ (1年のみ)			
1	言語感覚	詩歌創作		○			
2	文学一		聞く	○	5～6月	2学期	後期
3	構成・展開	伝達		○	6～7月		
	読書（テーマに沿って）						
4	吟味・判断	論証・説得	話す	○	9～10月	3学期	
	詩（日本語のしらべ）				10～11月		
5	古典	通信・手紙 (1・2年のみ)		○	11～12月		
6	文学二	描写・表現 (1・2年のみ)		○		3学期	
	読書（テーマに沿って）				1～3月		
7	言葉とメディア	感性・想像	話し合う	○			
	詩（詩の言葉）					3学期	
	読書（近代文学）						

※「読む」「書く」「話す・聞く」教材の前に、適宜「学びの扉」を配置。

※「言葉」教材には、「日本語探検」「文法の窓」「漢字道場」の3系統がある。

《基礎編》

- ・基礎編には、基礎的な資質・能力を取り立てて鍛えるための教材を収載しており、「学びを支える言葉の力」と「文法解説」から成ります。「学びを支える言葉の力」は本編の「学びの扉」が、「文法解説」は本編の「文法の窓」が、それぞれ導入教材となっています。
- ・「学びの扉／学びを支える言葉の力」は、直後に配置している「読む」「書く」「話す・聞く」教材と関連が深く、「学びの扉／学びを支える言葉の力」で習得した資質・能力を、続く「読む」「書く」「話す・聞く」教材で活用するといった連続性のある学習が可能です。一方、基礎編「学びを支える言葉の力」の各教材は、それぞれ本編の多くの教材と関連があるため、先に本編の流れから切り離して単独で扱い、後で本編の学習の中で適宜振り返ることも可能です。基礎編「学びを支える言葉の力」の各教材と本編教材との関連は、「学びを支える言葉の力」の各教材末尾の「学習のつながり」に例示しています。
- ・「学びの扉／学びを支える言葉の力」も「文法の窓／文法解説」も、配当時数の中に含まれています。

《資料編》

- ・資料編には、本編の学びを更に深めたり広げたりするための補助的な教材や、本編の学習に役立つ資料を収載しています。具体的には、本編の「読む」教材との読み比べ・読み広げに使える文章や、本編の古典作品について専門家が書き下ろした鑑賞・解説の文章、「話す・聞く」「書く」の学習を補助する資料、情報活用に関する知識をまとめた資料、語彙を豊かにするための資料、新出漢字・常用漢字の資料などを掲載しています。
- ・1年では、資料編の冒頭に「学習を始める前に」というページを設け、「ノート書き方の例」「メモの取り方の例」「情報の調べ方」「辞典の引き方」などを掲載しています。中学校での国語学習の入門期にご活用ください。また、3年では、発展学習として、「古典の文法」についての簡単な解説資料を載せ

ています。高校での本格的な古典学習に備えて、ご活用いただけます。

- ・資料編は必修扱いではなく、原則的に指導時数を配当していません。資料編の教材を授業で扱う場合には、関連する本編教材の配当時数に組み込むか、あるいは予備の時数を使うなどしてご対応ください。

(2) 指導計画の作成にあたって

- ・「新しい国語」の各教材は、「学習指導要領との対応・配当時数一覧」に示したとおり、学習指導要領に示された「知識及び技能」および「思考力、判断力、表現力等」の指導事項のいくつかを扱っています。多いものでは、「知識及び技能」で4つ、あるいは「思考力、判断力、表現力等」で3つの指導事項を扱っていますが、本資料では、なかでも特に重点を置く指導事項を◎で示しました。教科書中に、「目標」および「言葉の力（身につけたい力を明示した囲み）」として示した内容は、この◎の指導事項に対応しています。
- ・「新しい国語」では、指導時数を配当していない資料編教材や、インターネットを通して使用できる「Dマークコンテンツ」（音声や映像などの資料）を用意しています。教科書中および本資料中に、適宜、資料編教材や「Dマークコンテンツ」を活用できることを示しました。「Dマークコンテンツ」の利用の仕方は、教科書各学年 P12 または巻末折込末尾をご覧ください。
- ・本資料の評価規準例は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から設定しています。なお、「主体的に学習に取り組む態度」については、次の2つの側面を評価することが求められています。
 - ①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面
 - ②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面
- ・教科書中および本資料「年間指導計画例」中に、他教科の学習内容との関連を示しました。カリキュラム・マネジメントの参考にしていただけます。

(3)「年間指導計画例」の見方

本資料「年間指導計画例」(P13～)の各項目の概要は、以下のとおりです。

《薄いグレーの見出し》

- ・7つのまとまりの番号と名称，配当月を示した。

《領域〈系統〉教材名／ページ数・配当時数》

- ・領域と系統(〈 〉内)，教材名，ページ数，配当時数を示した。系統は，身につけたい力に基づき，3学年共通のものを設定。また，他教科の学習内容と関連がある場合に，その教科を示した。

記号の意味

他…………… 他教科との関連

《学習指導要領との対応》

- ・学習指導要領の指導事項や言語活動例との対応を示した。指導事項のうち，重点的に扱うものには下線を引いた。教科書中に，「目標」および「言葉の力」(身につけたい力を明示した囲み)として示した内容は，この重点指導事項に対応している。

記号の意味

[知技] …… 「知識及び技能」の指導事項

[思判表] …… 「思考力，判断力，表現力等」の指導事項

下線…………… 重点指導事項

活…………… 「思考力，判断力，表現力等」の言語活動例

《学習目標》

- ・学習目標を示した。「読む」「書く」「話す・聞く」については，教科書中に示した「目標」と同じ。《学習指導要領との対応》中に示した重点指導事項に対応している。

《学習活動例》

- ・配当時数の中で考えられる学習活動の例を示した。

記号の意味

*…………… 指導上の留意点や別案

(P○) …… 教科書のページ

基…………… 教科書の基礎編の学習活動例

資…………… 教科書の資料編の活用

D…………… Dマークコンテンツの活用

《評価規準例》

- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点による評価規準例を示した。
- ・「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準例は，扱っている全ての指導事項について設定した。重点指導事項に対応する評価規準例には◎を付した。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」は，次の4つの内容を含めることに留意して設定している。

- ①粘り強さ
- ②自らの学習の調整
- ③他の2観点において重点とする内容
- ④当該単元の具体的な言語活動

記号の意味

[知技] …… 「知識・技能」の評価規準例

[思判表] …… 「思考・判断・表現」の評価規準例

[主] …… 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準例

◎……………重点指導事項に対応した評価規準例